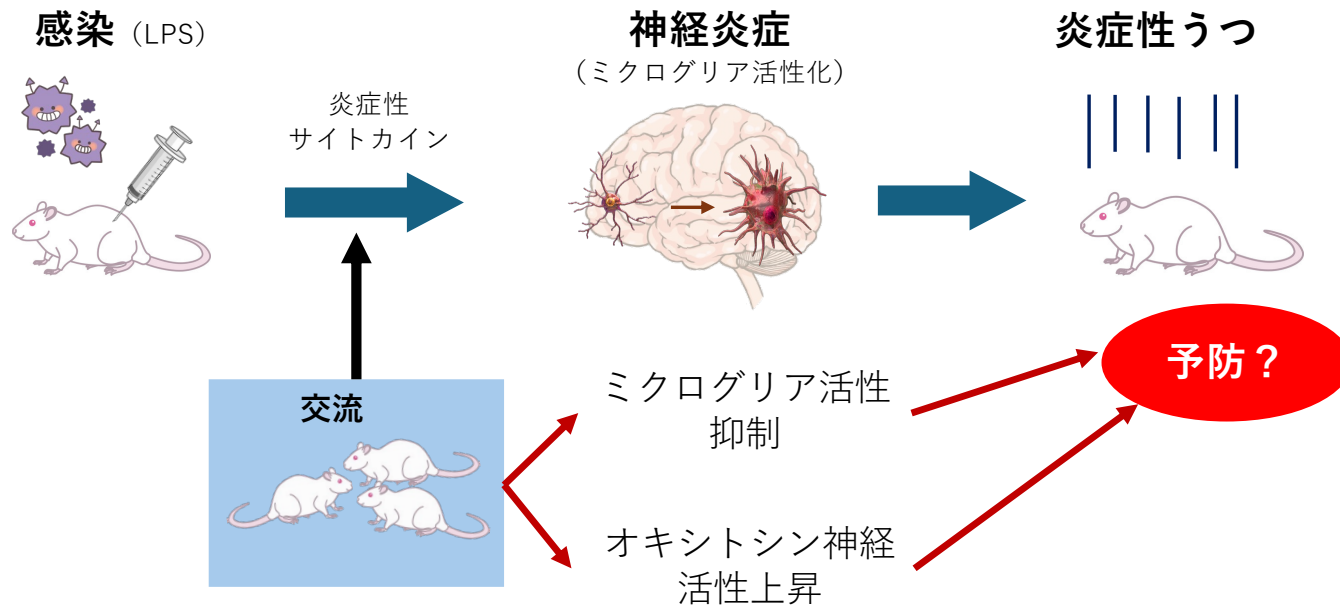


感染後の他者との交流は炎症性うつを発症を予防するか

理学部生命科学科 行動生理学研究室 余越美咲 | 指導教員 北一郎



解析方法

うつ様行動
→ 不動時間測定
(強制水泳テスト)

ミクログリア活性
→ 細胞体面積測定
(Iba1染色)

オキシトシン神経活動
→ 活性化細胞数測定
(FosB染色)

仮説：免疫活性後に他者と交流することでオキシトシン濃度が上昇、あるいはミクログリア活性化を抑制を介して炎症性うつを予防できるのか